

第1期地域アクションプランの総括と第2期地域アクションプランへの挑戦

第1期の総括

～地域の思いやアイデアを形に～

- 各地域の産業振興につながる様々な「仕掛け」・「仕組み」が動き出す
- 地域での雇用や経済効果につながるなど、成果を伴う取り組みも表れ始める一方で大きな花を咲かせ、地域の基幹産業として根付くまでにはさらなる取り組みが必要

地域アクションプラン項目数の推移

年度/地域	安芸	物部川	高知市	嶺北	仁淀川	高幡	幡多	計
H21当初	34	22	37	18	35	38	37	221
H21最終	34	22	37	18	35	38	38	222
H22当初	35	22	38	23	36	37	47	238
H22最終	37	22	38	23	38	37	45	240
H23当初	34	22	32	24	38	37	41	228
H23最終(見込み)	33	22	32	24	38	37	41	227

■3年間(H21～23)で新たに36プランを追加
 ※プランの動きについては、分割・統合・削除があるため全体の増減数と追加数は一致しません。

総合補助金を導入して動き出した事業

■総合補助金実績(H21～22)

○執行状況

- ・76事業者(99事業採択)
- ・総事業費:4,658百万円(県補助金額:1,659百万円)

○事業者内訳

- 民間.....16(21.1%)
- 市町村.....22(28.9%)
- 三セク、公社.....7(9.2%)
- 地域団体等.....31(40.8%)

○分野別件数及び県補助金額

- 農業.....27件(27.3%) 573百万円
- 林業.....7件(7.1%) 48百万円
- 水産業.....16件(16.1%) 206百万円
- 商工業.....19件(19.2%) 393百万円
- 観光.....20件(20.2%) 203百万円
- 地域拠点ビジネス.....10件(10.1%) 236百万円

※地域拠点ビジネス:地域の中核となる組織を核にした加工、直販、農作業の受委託等の多角的な事業

《各地域の状況》

安芸
 室戸ジオパークや魚梁瀬森林鉄道遺産など観光分野において、広域観光の視点に立った地域の特色を活かす取り組みを多数展開。ユズ茶の製造販売や、民間加工業者と連携したシメサバなど低価格魚の付加価値向上の取り組みが地元雇用に結びつく。

物部川
 農水産加工の分野では、生産者と消費者をつなぐ仕組みとして「農家レストラン」の立ち上げ、シイラの加工施設の整備などが展開。その他、地域の活性化に向けた「シヤモ鍋」などの特産品開発、観光面では「物部川地域観光振興協議会」を組織し、交流人口の拡大に向けた広域観光を推進。

高知市
 「龍馬伝」を契機として、観光遊覧船やまち歩きなど高知県の観光資源として特色となり得る取り組みが進む。民間事業者と連携したトマトや乳製品など農産加工による付加価値向上に向けた取り組みや、県域での特産品の販売拠点となる中心商店街でアンテナショップの取り組みを展開。

嶺北
 農畜産、林業など、生産体制の強化や一次産品を活用した加工品づくりの取り組みが進む。地域拠点ビジネスとして米粉や米粉を材料にした商品などに取り組むとともに、「土佐天空の郷」の取り組みはブランド米としての地位を確立。将来の地域産業を担うJA出資型法人を中心とした取り組みも展開。

《取り組みごとの特徴》

地産地消 地産外商
 ■直販所の売上向上(目標額:76億円)
 ・目標額の達成 70億円(H20)→80億円(H22)

■直販所の機能強化・新設
 ・高知市内へのアンテナショップの新設及び道の駅布施ヶ坂の機能強化(津野町)
 ・道の駅めぐり窪川の機能強化(四万十町)
 ・おち駅の新設(越知町)
 ・アンテナショップてんこすの新設(高知市)
 ・かつば市の機能強化(芸西村)
 ・田野駅屋の機能強化(田野町) など

■県内での商品の発掘・磨き上げ、外商活動の充実強化
 ・「まるごと高知」で地域アクションプラン関連の172商品を登録
 【課題】:魅力的な商品開発・事業規模拡大への取り組み

食品加工
 ■地域資源を活用した農水産加工の取り組みが大きく前進
 ・農産加工:ユズ茶、米粉、四方竹、文旦、こだわり野菜の加工品、直七
 ・水産加工:サバ、シイラ、うるめ、キビナゴ、養殖魚 など
 (参考)農水産加工事業30事業(県補助金額:約9億円)
 ⇒年間通したフル稼働による売上目標額(H23) 約50億円
 (純増見込: 約17億円)
 【課題】:地域経済の底上げにつなげるための民主導の取り組み

《効果》

雇用の受皿
 ■地域アクションプランによる雇用の創出
 500人/H22年度の増(計画前との比較)※H22年度末確定値

売上高等 経済効果
 ■総合補助金活用事業の効果
 31事業(H21年度採択)のうち25事業で売り上げが増加
 ⇒H22年度売上 約8.8億円/年の増(事業実施前との比較)

産地と一体となった企業の取り組み
 ■定置網で獲れた低価格魚の加工(水産物加工会社⇄県漁協)
 ■土佐文旦のリニューアル等(酒造会社⇄JAとさし)
 ■芋菓子の加工食品(芋菓子加工販売会社⇄芋生産者の協議会)
 ■木質系猫砂の製造(大手ペット用品会社⇄木材事業者、茶業組合)
 ■地域産品を活用した冷凍等(冷凍等製造販売会社⇄ユズ、トマトの生産事業者)
 ■シイラの加工食品(練り物加工会社⇄漁業者の企業組合)
 ■宿毛湾の水産物加工(県外大手飲食店⇄すくも湾漁協) など

仁淀川 「地乳」や「宇佐のうめイワシ」など新たに地域を代表する特産品等の開発や、地域振興につながる民間事業者の事業展開が活発化。域内の物産販売や、カヌーなど体験型の観光の拠点となる施設等の整備など、商工業や観光など幅広い分野で取り組みが動き始めた。「仁淀川」のテレビ放映に伴う機を逸さない売り出しを展開。

高幡 クラインガルテンや海洋堂ホビー館など交流人口拡大に向けた展開が図られた。主要品目であるミウガ栽培は順調に推移。シイラ、ショウガ、お茶などの農水産加工や農産物の直販への挑戦も始まっており、各分野でバランスの良い展開が図られている。

幡多 地域団体や民間企業による農水産加工の体制が整いつつある。また、観光分野での滞在型観光を目指した体験メニューの整備を中心とした活性化の下準備も整いつつある。水産加工施設の整備による地産外商に向けた取り組みや、ペットフード事業の展開による雇用効果は大きい。

魅力ある観光地づくり

■ 県内の観光資源の磨き上げによる魅力の高まり
 ・室戸ジオパーク ・モネの庭 ・森林鉄道遺産 ・中岡慎太郎館 など
 ・土佐つ歩 ・高知市観光遊覧船 ・海洋堂ホビー館

■ 地域に根差した体験メニューの育成
 ・イルカとのふれあい体験 ・サンゴウォッチングやシーカヤック
 ・仁淀川カヌー ・ドラゴンカヌー ・農業・漁業体験
 ・森林セラピーロード ・カツオのたたきづくり など

【課題】：他県との競争に負けない魅力ある商品づくり

全国・世界基準に挑戦

■ 室戸ジオパークの世界ジオパーク認定

■ ブランド米「土佐天空の郷」のお米日本一コンテスト 最優秀賞

■ 世界的に有名な海洋堂との連携によるフィギュアのミュージアム整備 など

多角的なビジネスの展開

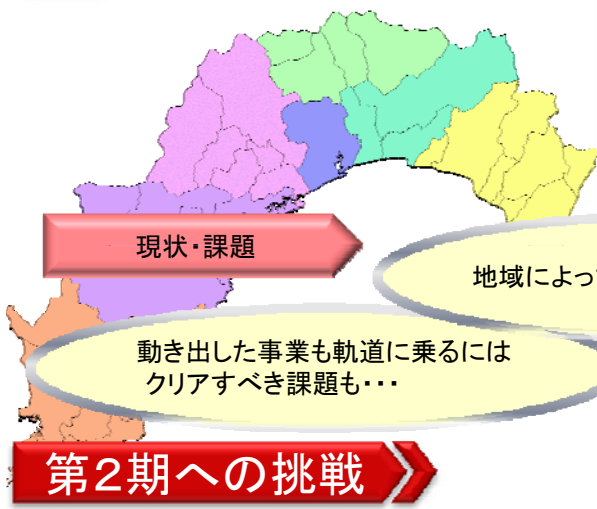
■ 中山間地域の活性化につながる地域資源を活用した多角的なビジネスが進展
 ・本山町特産品ブランド化未来創造構築事業
 ・津野町地域資源「ふる」活用ビジネス事業
 ・四万十町拠点ビジネス体制整備事業
 ・地域資源を統括したプログラム構築によるしみの元気再生事業
 ・果樹(ユズ)・露地野菜の産地づくりによる三原村農業所得安定向上支援事業
 ・大月まるごと販売事業 など

■ その他の特徴的な取り組み
 ・薬用作物(大手製薬メーカー漢方薬向けの薬用作物の産地育成)
 ・土佐はちきん地鶏(土佐はちきん地鶏の県内での生産拠点として展開、新しい地場産業を目指す)
 ・土佐備長炭(新たな共同窯・研修窯の設置による生産量の拡大、新規生産者の養成)
 ・農家レストラン(地産地消、安全安心を背景に生産者と消費者をつなぐ仕組みとして構築)
 ・どくろもん(地域資源である「かつお」を加工・商品化し、新たな「食」ビジネスを展開) など

【課題】：動き出した事業の定着
 ・将来にわたり安定した所得を生み出す仕組みづくり

地域ブランドの確立へ

■ ごめんケンカシャモ(南国市)
 ■ 四方竹(高知市)
 ■ 米粉(土佐町)
 ■ シュガートマト(日高村)
 ■ 一本釣りうめ(土佐市)
 ■ さかわの地乳(佐川町)
 ■ カツオ商品(中土佐町)(黒潮町)
 ■ 津野山産原木しいたけ(橋原町・津野町)
 ■ 直七(宿毛市) など



- 地域外、他産業との連携も意識したダイナミックな取り組みへのサポート
- 民間の力が縦横に発揮されるための仕組みの充実・強化
- 中山間対策の抜本強化

平成24年度 地域アクションプランの項目数: 219

年度/地域	安芸	物部川	高知市	嶺北	仁淀川	高幡	幡多	計
H24当初(予定)	28	23	29	27	38	33	41	219

■ 第2期計画では新たに28プランを追加(平成24年1月20日時点)
 ※プランの動きについては、分割・統合・削除があるため全体の増減数と追加数は一致しません。

将来の姿

《4年後》新たな事業に挑戦する事業者等が増加し、地域の資源を活用した商品が次々と誕生するとともに、積極的に地産地消・地産外商活動を行うことにより、事業が継続し、所得が向上する。

《10年後》地域に雇用の受け皿となる産業が数多く育ち、若者が地域に定着する。